暮らしの中の医療のカタチ
看護師編

看護師は、医療処置の支援や症状緩和に向けたケアを提供するとともに、ご家族への支援や療養環境の調整も行います。

病院看護師

院内及び地域の専門職と連携をとり、治療に伴うケアや苦痛緩和に向けたケアと合わせて今後の療養に向けた調整を行います。

訪問看護師

病院の看護を引き継ぎ、地域の医師やケアマネジャー・ボランティア等の方々と連携をとり、あなたらしく生活できるように支援を行います。

体調の状態を確認します

- 血圧測定など健康チェック
- 医療処置の支援
- 薬剤管理
- 自立に向けた補助・指導

痛みや浮腫等のつらい症状の緩和に向けたケアの提供

- 上手な薬剤の使い方
- 負担の少ない暮らし方の提案
- 介護用品の工夫
- マッサージ等のケア

家族への支援

家族の心配事や不安が強くなると、
安定した治療・療養生活の継続が難しくなる場合があります。
ご家族の健康管理やこころの支援を大事にしています。

医療機関と地域 / 暮らしを繋ぎます

病状や暮らしに合わせて必要な人材をコーディネートします。

かかりつけ医

訪問診療医

ケアマネジャー

ヘルパー

暮らしの中の医療のカタチ
在宅医療のはじめ方

通院では、自宅〜医療機関の移動や診察の順番待ちに体力が必要となります。通院に負担を感じる場合、頑張り過ぎずに訪問診療に切り替えることがポイントです。

訪問診療型

定期的な訪問 と 緊急時の訪問を行います。相談は、通院困難になってからではなく、少し余裕をもって、通院に負担を感じ始めた時にされると良いでしょう。

通院、時々往診型

普段、通院している診療所の先生が昼間や夕方の時間を使って定期的 あるいは 患者さんや家族の求めに応じて往診する方法です。

あなたが”しんどさ”を感じているのであれば
是非、主治医や看護師に伝えてください。
あなたの希望や暮らし、病状に応じて
適した診療方法を調整します。

もっと教えて! 在宅Q&A

“寝たきり”になってからお願いしたほうがいいの？

いいえ、もっと早い段階から在宅医療を受けることをお勧めします。より良い暮らしのためには、在宅医療のスタッフと十分な話し合いが大切です。
“寝たきり”になってからではなく、自宅での療養を考えた時点から在宅医療はご相談頂けます。また、病院の治療と在宅医療を併せて受けることも可能です。